

## LPガスCP速報(2025年10月積)

### 1. 10月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **495**  $\text{ドル}$  (前月比-25  $\text{ドル}$ )

ブタン **475**  $\text{ドル}$  (前月比-15  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガスは不需要期、極東は猛暑続きで家庭業務用需要は低迷、供給はOPECプラスの増産で潤沢。FOB市場は、フレートがやや軟化するなか堅調に推移する一方、CFR市況は軟化、10月積み極東着市況は、10月CPマイナス5~10  $\text{ドル}$ の大幅なディスカウント、プロパン530  $\text{ドル}$ どころまで下げた。石化用ブタン需要は、米国産ブタン高で、中東ブタン付きカーゴの引き合いが増加、ナフサ対比ブタンの価格競争力が落ちてきた。

米国市場をみると、需要は堅調、輸出は回復傾向(グラフ③参照)で高水準。中国向け関税引き下げ措置は90日間延長され6月を底に増加も、追加入港料の賦課により中国の中東シフトが続いている。天然ガス増産で供給は潤沢、全米プロパン在庫は積み上げが進み、在庫水準は5年平均レンジの最上位まで上昇した。モンベルビュープロパンスポット価格は、第1週350  $\text{ドル}$ 台でスタートしたが、原油市況に追随上げ下げとなり下旬には369  $\text{ドル}$ まで上昇、月間平均では前月比12  $\text{ドル}$ 反発の359  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub>どころ(グラフ①参照)となった。

フレート市況は軟調に推移した。米国における中国関連船舶への追加入港料賦課を回避して、中国系船舶は中東で成約を急ぎ軟化、中東~極東市況は70  $\text{ドル}$ 台で推移、インド向けは80  $\text{ドル}$ 台で成約されている。ロンドンのカンファレンスウィーク終了後成約ラッシュで米国~極東市況は160  $\text{ドル}$ まで上昇したが、米国・極東玉の価格格差が縮小し、フレート市況も140  $\text{ドル}$ 台に軟化、船主と傭船サイドの乖離が解消されつつある。

ナフサ市況は反発、月間平均は前月比21  $\text{ドル}$ 上昇の602  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub>どころ。原油市況が狭い範囲のレンジ相場、ナフサも590~620  $\text{ドル}$ で推移した。石化需要は回復傾向。

バンカーオイルをみると、堅調に推移した。シンガポールIFO380は小幅続落、月間平均で前月比2  $\text{ドル}$ 下落の413  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は2カ月ぶりの反発、前月比18  $\text{ドル}$ 上げの677  $\text{ドル}$ どころ、世界的な留出油の低在庫、ウクライナのロシア製油所攻撃でディーゼル油の供給に懸念も生じ、C重油との格差は264  $\text{ドル}$ に拡大した。

10月CPは前年同月比プロパン130  $\text{ドル}$ 、同ブタン145  $\text{ドル}$ の下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン6、ブタン4ポイント下落、前年同月比ではプロパン18ポイント、ブタン21ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	80	80	80	70	73
CP先物指標:P	530	550	540	540	540
CP先物指標:B	510	525	520	520	519

#### ② 原油市況等

9月の原油市況も、WTIで61~66  $\text{ドル}$ の狭いレンジ相場で推移した。ロシアとNATO諸国との緊張が高まるなか、ウクライナによるロシア石油インフラへの攻撃が続き、ロシア産原油・石油製品輸出の見通しも不透明。地政学リスクが市況を下支えする一方、OPECプラスの増産政策、世界経済の減速懸念で供給超過の見通しが示され、需給と地政学リスクの綱引き状態が続いている。米国はレイバーデーの連休でガソリンシーズンが終了、在庫水準は原油、留出油の低在庫が続いている。金融市場では、利下げ観測から株価が上昇、最高値を更新するなどバブルの様相を呈しているが、原油先物市場では、薄商いで取組高もファンドの買い越し残もこの15年で最低水準。アルゴリズム取引を行うCTA(商品投資顧問業者)のポジションチェンジで値動きするものの、決め手を欠く展開となっている。

○9月積みアラビアン・ライト(9月1~29日までの想定)は73.30  $\text{ドル}$ (前月比+1.74  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン600.98  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub> ブタン592.74  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub>

AL比 プロパン82.36% ブタン80.14%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2025年9月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
9月月間	148.99	84,200	81,500	-900	-1,300

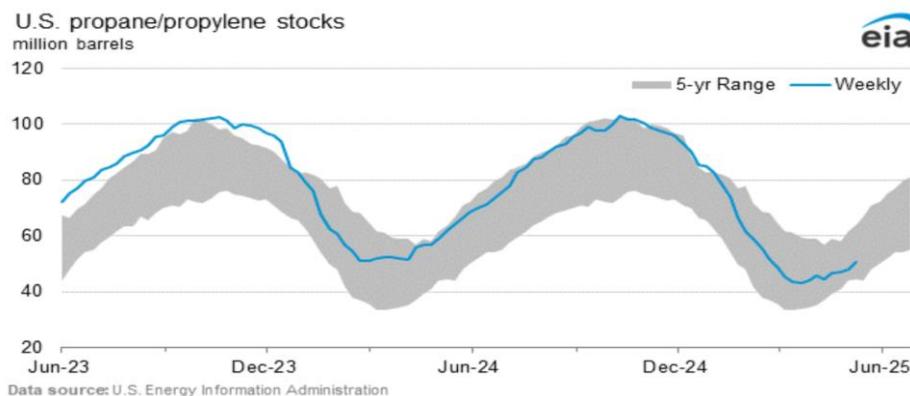
\* T T S平均等について、上記は9月1～30日までのT T S平均。C Pは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はC P70%、MB30%で算定。C F Rコストは中東・北米フレートを含むC F Rコストを表示。C F Rコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは9月26日までの価格を基にE I Nで試算（359ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

### ① 米国プロパンスポット価格推移



### ② 米プロパン在庫推移



### ③ 米プロパン輸出量推移

